

観測部月報

★

東亞天文協會

★流星課だより (86)

小横孝二郎

12月には上～中旬に双子座 θ 流星群が訪れる。この流星群は8月のペルセ群を除いては、1年の中最も出現の豊富な流星群の一つであつて極大は今令では13日～14日の頃にある。月初から其の先驅が観測され8～9日頃には可成り数を増すが、極大をすぎると急に少くなり16日以後は極めて少い。この流星群と大體期を同じくして同じ双子座の β 星附近に輻射點を有つ別の流星群が現はる。多い時期は幾分 θ 流星群よりは早い。この外上旬には大熊座 μ 流星群があるが、これは過去に著しい出現を示したことがあつた。

今年は14日が下弦に當るのでこれらの流星群は月光に妨げられるが、 θ 流星群は極大の頃夜半前に観測すれば月は避けられる。

× × × ×

前回報告後到着した観測は、吉井耕一氏(8月及9月)、島崎光治氏(8月)、堀田泰生氏(10月)の外中野繁氏其他から火球の報告があつた。自分は10月の大部分病氣の爲観測出来ず僅かに7日及22日朝數個の流星を観測したに過ぎぬ。

吉井氏は8月24～25日の観測中に水瓶座 δ 附近に輻射點を有する一流星群を認められた。又9月24日夜には鯨座($\alpha=23^\circ$, $\delta=0^\circ$ 附近)に、翌夜には三角座($\alpha=35^\circ$, $\delta=+35^\circ$)に流星群の活動するを見られてゐる。

本年10月のオリオン群は堀田氏の21日朝の観測によつて1時間に17個のオリオン群を見られてゐるので相當に豊富であつた様である。22日朝及23日朝自分もオリオン群に注意したが一昨年程のものではなかつたが、かなり多かつた様に思ふ。詳しくは今後到着した観測報告でわかるであらう。

自分は10月28日武漢陥落慶祝の提灯行列に参加したが、同夜21時頃南天に見事な火球(光度負三等、オレンジ色)が見られた。他地方で見られた人の報告を望む。(X30日記)

★太陽課だより (1938年10月)

報告者 16名(前月より2名増)。新報告者は瀬戸の草場氏と東京の三宅順一郎氏。

天候 例年に反して、非常に曇、雨が多かつた。従つて各観測者共に欠測が多く、全員で補つて見ても、3、12、13、20日の4日が缺けた。是非臺灣、朝鮮、北・中支方面からの報告者が欲しい。

概況 前月よりも、平均相對数は稍増加した様である。日月に入つて相當活動が激しくなつて來た。

太陽課 黑點相對數報告 (1938年10月)

觀測者 (觀測地)	森久保 茂 (東京慈惠醫大)	三宅順一郎 (東京市立一中)	堀田 泰生 (横濱市東寺尾)	淺居正雄 (横濱市神戶上町)	杵掛 七二 (長野縣青木村)	大石 辰次 (靜岡縣吉永村)	島崎光治 (石川縣大聖寺町)	山田 達雄 (愛知縣犬山町)	正村 一忠 (岐阜市溝旗町)	木邊 成曆 (滋賀縣中里村)	織田太郎 (大阪市大寶寺町)	野村祐馬 (和歌山市南川邊)	伊達英太郎 (兵庫縣雲雀丘)	草場 修 (廣島縣瀨戶村)	津留 繁雄 (熊本水本莊町)	坂上 務 (鹿兒島市山下)		
口徑 mm	102	130	100	115	60	76	75	25	35 69	75	64	64	75	102	58	38	50	60
倍率	67	45	45	82	62	75	60	48	44 87	64	64	75	60	50	32	62		
1	128	曇		261	(缺)	131	缺	缺	109	100	缺	缺	缺	缺	155	99	缺	缺
2	114	118		缺		101	雨	缺	缺	缺	缺	缺	缺	缺	135	缺	114	曇
3	雨	雨		145		98	曇	曇	78	79	79	79	79	79	96	75	曇	雨
4	雨	96		167		98	曇	曇	81	81	81	81	81	81	76	59	曇	缺
5	85	92		122		98	曇	曇	88	88	88	88	88	88	97	缺	缺	曇
6	94	97		130		115	曇	曇	73	73	73	73	73	73	156	102	缺	曇
7	91	107		102		103	曇	曇	84	84	84	84	84	84	135	198	缺	曇
8	105	100		缺		125	曇	曇	71	71	71	71	71	71	176	228	缺	曇
9	131	曇		144		130	曇	曇	135	135	135	135	135	135	182	228	29	曇
10	120	99	雨	雨		雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
11	雨	102	曇	雨		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
12	雨	曇	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
13	雨	曇	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
14	雨	78	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
15	53	雨	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
16	81	69	缺	缺		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
17	86	55	99	缺		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
18	86	41	91	缺		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
19	66	44	36	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
20	49	24	雨	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
21	雨	雨	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
22	61	59	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
23	62	35	48	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
24	66	52	77	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
25	79	66	78	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
26	107	81	92	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
27	曇	114	107	159	缺	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
28	曇	128	167	162	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
29	曇	雨	117	226	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
30	曇	曇	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
31	161	曇	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	185	253	缺	曇
觀測日數	20	20	11	14	4	8	16	9	17	15	10	10	10	11	14	5	7	
一日平均	95	81	—	134	—	—	96	—	78	72	72	114	123	155	—	—		
前月平均	88	70	—	—	34	86	98	61	87	73	—	98	—	126	—	74		

瀬戸では本田實氏に代つて草場氏、東京一中では御供氏に代つて三宅氏が報告。

肉眼的黒點	坂上	津留	正村	堀田	森久保	淺井	全體合計
觀測日	20	20	9	14	7	14	84
出現日數	8	6	5	4	2	4	29
黒點群數	8	6	5	4	2	4	29

觀測日と出現日數との比は0.34であり、先月よりも淋しく、正村氏以外は、5日東端に現はれ17日西没した大黒點群に限られて居る。然し、丁度此の大黒點が中央に来る頃は、全国的に曇天が多かつたから、前記の値のみで、前月よりも淋しかつたとは云ひ難い。それは實に巨大な群であつた。

南北兩半球の比較 南北半球別の相對數を示す

	津留	織田	木邊	山田	烏崎	沓掛	堀田
南	23.9	32.6	31.2	21.1	34.0	33.8	47.7
北	56.2	56.4	64.6	56.8	37.9	79.7	107.7

南北の比は、南 1.00 に對し北 2.05 となつて、先月以上に北半球に偏したらしい。11月に入つて、少し戻つて來ると思はれる。最も高緯度の群は、28日東半球に現れたもので、南 31° (堀田氏測定) であつた。肉眼に映じた大黒點は、北緯 15°~19° (沓掛、堀田氏) にあつた。其他のものは概して南北共に 10°~20° の邊に多いのは、常と變りなかつた。低い方では17日西半球に現れた小群で、殆んど赤道上 (堀田氏) にあつた。他に猶ほ 5° 位のものも數個あつた (沓掛、堀田氏)。

其他 沓掛、堀田兩氏は黒點群の緯度、スケッチは坂上、堀田、津留の3氏より報告を受けた。

相對數表に就いて 觀測日數が10日以下の方の1日平均相對數は、假りに發表を見合はせましたが御諒解下さい。又欠測の理由も、報告には色々記入してありますが、表では字數に制限がありますから旅と記入したのは、觀測者が、觀測地を離れた結果缺測した場合を意味し、單に欠と記入した時は、觀測は可能であつたが、多忙等の理由の爲めに缺測した事を意味する様にしました。猶ほ曇雨の場合は、雨と記入して、純然たる曇のみを曇と記入しました。今後報告者は右の意向を御含み置き下さい。

訂正 前號 (天界211號) には甚だ誤植が多く失禮でありました。次に訂正致します。

相對數表欄上の (1938年8月) は (1938年9月) に、

觀測口經の列は、木邊 75、正村 25、烏崎 75、沓掛 102に、倍率は、木邊 60、正村 48、と訂正致します。御迷惑をお掛けした方に御詫が致します。(木邊)

★變光星課

1938年10月分報告受理下表の通り

觀測者	觀測地	星數	日測數
沓掛 七二	長野縣青木村	2	8
西川 英男	大阪市	1	2
廣瀬永治郎	岐阜縣美濃町	19	87
小澤 喜一	名古屋市	33	202
坂上 務	鹿兒島市	4	5

三宅 和夫	大阪府豊中	7星	39回	内譯 第2部		
清水 直次	京都市	4	25	小澤 喜一	33星	202回
島崎 光治	石川縣大聖寺	4	25	杵掛 七二	5	7
山田 達雄	愛知縣犬山町	5	15	廣瀬永治郎	2	7
木邊 成磨	滋賀縣中里村	38	173	木邊 成磨	31	151
合計 10名		70	581	計	39	367

第1部 (光度は略して数字だけで記します)

長週期星類 増光中 R Tri 7.0~6.1 (清水 3, 廣瀬 7, 山田 2)

R And 8.8~8.1, T Aqr 10.0~9.5, R Peg 8.6~8.0, U Ori 10.0~9.5 (以上廣瀬).

極大附近 T Cet 6.0 ± (清水 3, 島崎 2, 山田 2), W Cyg 6.3 ± (山田 6), R Sct 6.1 ± (山田 3), R Sct, R Oph, R Sgr (廣瀬)

減光中 α Cet 4.0~5.1 (杵掛 1, 坂上 1, 三宅 7, 清水 8, 島崎 3, 山田 2, 廣瀬 5, 木邊 5), λ Cyg 9.3~9.8, U Her 8.6~9.2, X Oph 7.6~7.9, R Ser 7.4~7.9 (以上廣瀬)

其他 γ Cas やや暗し 2.5 ± (西川 2, 島崎 10, 木邊 3), DQ Her 9.0 ± (木邊 2).

R CrB 10月中は變化小? 10月4日 7.5, 6日 7.6 (木邊, 前號参照).

10月16日	8.3	木邊	8.1	廣瀬	11月3日	<9.8	木邊
17日	8.0	木邊	8.1	廣瀬	5日	11.0	木邊
18日	7.9	木邊	8.2	廣瀬	8日	11.3	木邊
19日	8.1	廣瀬					
22日	8.0	三宅					
23日	8.1	木邊	8.3	廣瀬	11月に入つて急速に減光.		
25日	8.0	三宅	8.8	廣瀬	10cm 以上の器械で朝見る事.		

RV Sqr 16日 7.9, 18日 9.0, 23, 25日 10.0 (廣瀬) 其他省略.

第2部. **2 Max**, FO Aql (小澤, 木邊), Cy Lyr (小澤, 木邊); **1 Max** RX And, AY Lyr (小澤), UU Aql, BI Ori, CZ Ori, UZ Ser (木邊); **停止** TZ Per (小澤, 杵掛, 木邊); **減光中** DI Cyg 11.0~11.7, UU Gem, AU Gem (小澤, 木邊), ST Sge (小澤); EZ Aql, RW Aur (小澤, 木邊), WZ Aur (小澤) 以上變化多様; SU Tau 11.1 復光?; SV Sge 減? (小澤); RS Oph 11.0 ± (杵掛, 木邊); 其他略, 又は變化なし.

12~1月頃極大になるミラ型の星

星名	光度	極大豫定日
R And	5.6~14.7	12月10日
S CMi	7.0~13.0	12月19日
U Cet	6.6~13.2	12月16日
R Gem	6.5~14.3	1月 5日 (1939年)
1. ² Pup	3.1~ 6.3	1月27日 (1939年)

(以上木邊)